

JICAシニア海外ボランティア「景観保存」

タイ国 第2の都市チェンマイへの赴任、2年間の記録 第3回 チェンマイの現地事情

チェンマイの概要

チェンマイ市は古い歴史と伝統・文化を有するタイ第二の都市であり、タイ北部の中核都市であるとともに近隣諸国・地域とを結ぶゲートウェイでもある。四囲を濠で囲まれた旧市街と周辺に発達した新市街とが対照的な街で、所々に残る城壁、土塁、古寺が古都の面影を伝えている。

チェンマイ県の面積は20,107km²。ナコーンラーチャシマ一県に次いで2番目に大きい面積を持つ。首都バンコクから鉄道で750km、陸路で720kmの距離にある。全国人口統計によると、2006年末現在、チェンマイ県の人口は165万人を超えており、県別で全国第5位であり、さらにチェンマイ県の中核の都市であるチェンマイ市の2005年の人口は15万人を越え、全国第5位の人口を擁している。(因みに、県別での1位～4位は、1位：バンコク首都圏、第2位：ナコンラーチャシマ県(東北部)、第3位：ウボンラーチャシマ県(東北部)、第4位：コンケン県(東北部)である)チェンマイ市は人口数では全国第2位ではないが、その豊かな歴史及び発展度合いを背景としてタイの人々の間ではタイ第2の都市と呼び称されている。確かにタイ北部の行政、経済、産業、文化の中心地であり、チェンマイ大学やメージョー大学をはじめとする国公立、私立の大学等の教育機関も多く、その名に相応しい都市といえる。



図-1 チェンマイ県と奈良県の比較

図-1はチェンマイ県と奈良県を大きさで比較したもので、総面積で約5.4倍だが、都市計画区域については奈良県が約2.7倍ほど大きい、今後は地方分権化の推進により主要市部を含めた都市計画区域の増設が予定されている。

●チェンマイ県

人口 1,650,009人 東西 165.5km 南北 323.2km

総面積 20,107km² 都市計画区域面積 429km²

●奈良県

人口 1,405,074人 東西 70.6km 南北 103.4km

総面積 3,690km² 都市計画区域面積 1,159km²

チェンマイの気候

タイ北部の気候は、南西モンスーンと北東モンスーンの影響下にあり、雨期と乾期が画然としており、かつ寒季があるのが特徴である。3～5月が最も暑く、日中戸外では気温が40℃を超える日もある。夜も蒸し暑いため寝苦しく、一日中冷房を必要とする日が多い。6～10月の雨期には、毎日雨が降る。各所で洪水が発生し、被害が甚大である。11～4月が乾期であるが、その中でも11月から2月の平均気温は約23℃であるが、山間部では冷え込みが厳しく、チェンマイ市内でも12～1月の早朝は10℃を下回ることがある。しかしながら、日中の気温が30℃を超えることもあるので寒暖の差が激しい。

チェンマイの行政

タイの地方行政制度は、県(チャンワット)、郡(アンブー)、町(タンボン)、村(ムーバーン)という順に細分化される地方行政区分が存在する。タイは中央集権の色彩が強く、チェンマイ県知事及び各々の郡長は、日本のような選挙で選出される地方公務員ではなく、中央政府から派遣される内務省の常勤公務員である。因みに、チェンマイ県には22郡(及び郡に準じた2つの準郡が存在)が置かれている。

その他、人口密集地域には、市(テーサバーン)と呼ばれる行政区が設置されており、チェンマイ市の市長等は、市民の直接選挙によって選出されている。



日タイ修好120周年、2007年9月撮影



執筆者

上嶋晴久 (うえしま はるひさ)

1957年 大和高田市本郷町(天神橋筋)生まれ

1979年 近畿大学理工学部建築学科卒業(成瀬研)

HULL (ハル)建築設計 主宰

社団法人奈良まちづくりセンター 副理事長

株式会社 国際開発アソシエイツ(P/E)

奈良まほろば大使

チェンマイの歴史概略

- 767年頃～ランブーンのハリブンチャイ王国の支配地
- 1259年 メンラーイ王が即位、チェンライから勢力を拡大
- 1281年 ヴィエングムカム遷都(洪水が頻繁に起こる)
- 1296年 チェンマイにランナー・タイ王国を建設
- 1441年 ランナー・タイ王国の黄金時代
- 1558年 ビルマがチェンマイを攻撃し支配される
- 1767年 (アユタヤ王朝が滅亡)
- 1774年 トンブリ王朝と手を結びビルマを撃退
- 1782年 (ラーマ1世がバンコクで即位、初代タイ国王)
- 1802年 ラーマ1世よりカーウイラ王が領主に任命される
- 1866年 西洋人の進出、森林伐採権等の問題発生
河川交易による商業発展(中国商人の流入)
- 1892年 ラーマ5世による政治改革(タイ行政区に編入)
- 1921年 鉄道開通
- 1932年 タイが立憲君主制となり、正式にタイ国に編入
- 1940年 第二次世界大戦中、日本軍基地が作られる
- 1989年 第1次チェンマイ都市総合計画発令、施行
- 1996年 チェンマイ建都700周年記念
- 現代 北方のバラと呼ばれる国際観光都市となる

チェンマイ県の都市計画問題の背景と課題

チェンマイは、タイでバンコクに次ぐ第二の都市であり、北部タイにおける行政、商工業、文化、教育、観光の中心的役割を担っている。また700年を越える歴史と伝統文化をもった古都であり、スーテープ山をはじめとする山並みに囲まれた自然景観に恵まれ「森の都」でもある。そして、近年ではAPECや国際園芸博覧会など重要な国際会議等が多く開催されるなど国際都市に発展しつつある。

他方タイ経済は、通貨危機による落ち込みはあったものの、順調な経済成長を続けており、チェンマイでは急速な都市化が進み、都心部では中高層ビルが多く建設される一方で、都市外縁部では次々と中小デベロッパーによる無秩序に新興住宅地(ムバーン・ジャットサン)が開発されて、都市膨張が続いている。

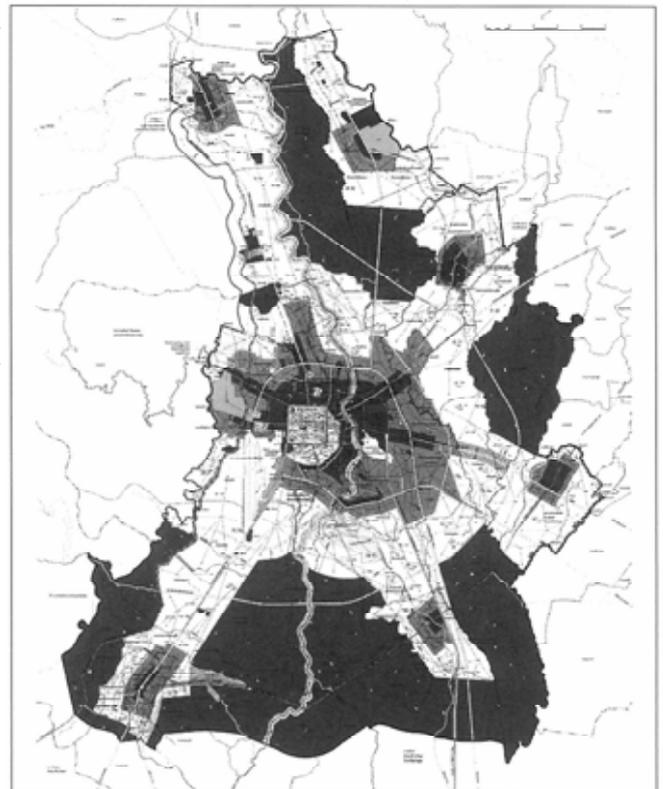
このような都市のスプロールの拡大と自動車交通の急増によって、主要交差点は朝夕の交通渋滞が恒常化し、交通事故も多発し、大気汚染による住民の健康被害が懸念されている。またチェンマイのランドマークである古都地区や旧街道沿いの街路樹にも被害が顕在化してきている。

このように、都市成長期にあるチェンマイは、都市中間層の増大に伴い激しい都市開発の渦中にあるが、チェンマイ県全域の広域都市計画が1999年に策定されているものの、おおまかな用途分類による土地利用規制が中心であり、実際に街づくりの方向づけやコントロールは難しい状況にあ

る。このため、同計画の改定作業のなかで、より具体的かつ実効性のある総合的な都市計画(土地利用計画・交通計画を含む)および地区計画を策定する必要がある。

また、チェンマイの歴史性を生かし真に国際文化観光都市の形成のためには、文化遺産や歴史的景観の保存・活用計画や都市緑化計画の策定、「ヴィエングムカム地区」等において発掘調査中の洪水により埋没した旧都遺跡について、街づくりの中で保存修景していくことも緊急の課題である。

さらに、土地区画整理法(2004年)が施行されたことから、市街地整備のために適地を選定して土地区画整理事業を計画・実施していくことが求められている。



チェンマイ都市総合計画第3次改定、土地利用計画図(案)

土地利用種別区分は、日本の用途地域区分と類似しており、低密度居住地区、中密度居住地区、高密度居住地区、特定工業地区、農村および農業地区、レクリエーションスペースおよび環境保護地区、教育施設地区、タイ伝統文化芸術保護奨励地区、宗教施設地区、政府機関及び公共事業地区、軍隊関連施設区域となっている。

参考文献

- チェンマイ案内(在チェンマイ日本国総領事館)
- 都市計画S Vグループ派遣要請案件の概要
- チェンマイ都市総合計画・土地利用規定(案)